

これまでのUWSの振り返りと UWS2019について

セコム株式会社 IS研究所

坂本一仁

2019.8.8

ユーザブルセキュリティワークショップ

- UWSについて

- コンピュータセキュリティシンポジウムの併催ワークショップ
- セキュリティ心理学とトラスト(SPT)研究会主管

- UWSの目的

- 学際領域研究の促進
 - セキュリティ・プライバシーと高いユーザビリティを両立させる研究の発展とその成果の普及
- 産学連携の促進
 - 研究者や技術者の相互協力の実現と場の提供

ユーザブルセキュリティワークショップ

2019年の体制

• 実行委員

- 金岡 晃（東邦大学）<委員長>
- 長谷川 まどか（宇都宮大学）
- 島岡 政基（セコム）
- 長谷川 彩子（NTT）

• プログラム委員

- 坂本 一仁（セコム）<チェア>
- 宮本 大輔（東京大学）<副チェア>
- 石井 健太郎（専修大学）
- 五味 秀仁（ヤフー）
- 高田 哲司（電気通信大学）

発表者紹介

- 坂本 一仁 (Takahito Sakamoto)
 - Usable Web Privacy
 - プライバシー保護ツールの調査
 - Webにおけるトラッキング/プロファイリングの調査
- セキュリティ心理学とトラスト研究会幹事
- CSS2019 UWSトラックチェア

動向、そしてUWS

- **セキュリティ・プライバシーに関する人間的側面の研究**
 - Symposium on Usable Privacy and Security (SOUPS) since 2005
 - 最近は他のトップ会議においても人間的側面の研究論文の採録が多い
- **国内における勉強会**
 - SOUPS論文読破会@SPT研究会 since 2011
 - ユーザブルセキュリティ・プライバシー(USP)論文読破会としてSOUPS以外の論文も含め5月と11月の年2回開催へ
- **同分野国内初のワークショップ**
 - ユーザブルセキュリティワークショップ(UWS) since 2017

UWS2017

16件の論文発表

認証系 7件

CSS2017優秀論文賞

オンラインオークションにおけるプライバシーリスクとユーザ認識の調査 長谷川 彩子, 秋山 満昭, 八木 毅 (NTT), 森 達哉 (早稲田大学)

プライバシー 3件

CSS2017学生論文賞

暗号系 2件

私的な連想情報の再認による個人認証と安全性評価 山岸 伶, 高田 哲司 (電気通信大学)

行動心理 2件

CSS2017コンセプト論文賞

UI評価 1件

馴化を抑制しうる新たなセキュリティ警告の探求: かわいいとその付加刺激の効果に関する評価 皆川 諒, 高田 哲司 (電気通信大学)

同意取得 1件

CSS2017奨励賞

オンラインストレージサービスに対するクライアント側暗号化と検索可能暗号のユーザビリティ評価 立川 彰宏, 緑川 達也, 金岡 晃 (東邦大学)

[参考] 金岡晃, “ユーザブルセキュリティワークショップ(UWS)2017発表論文の特徴分析,” 第27回SPT研究発表会, 2018年3月

UWS2018

14件の論文発表

| | |
|-------|----|
| 認証系 | 4件 |
| ユーザ支援 | 3件 |
| 統計調査 | 2件 |
| UI評価 | 2件 |
| OSINT | 2件 |
| 仏教 | 1件 |

CSS2018学生論文賞

言語圏ごとのパスワード生成・管理の傾向比
森 啓華（早稲田大学）, シュウ インゴウ（早稲田大学）, 森 達哉（早稲田大学）

UWS2018論文賞

「かわいい」はセキュリティ警告の効果を改善しうるか？（第2報）～心理効果による安全行動誘引の試み～
皆川 諒, 高田 哲司（電気通信大学）

CSS2018奨励賞

環境情報を用いた脆弱性検出のチャットボット
アーノ 有里紗（日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所）, 他

最優秀ライトニングトーク賞

セキュリティプレゼンのネガティブさに物申したい！
山口利恵（東京大学）

+ ライトニングトーク 10件

UWS論文の傾向

- ユーザスタディの実施

UWS2017

11 / 16 件

UWS2018

5 / 14 件

- 倫理的配慮の論文中記載

UWS2017

4 / 16 件

UWS2018

3 / 14 件

ユーザスタディ、倫理的配慮は欠かせない存在 . . .
でもどうすれば . . .

Schechter文書 (SOUPS CFPで推奨)

- Common Pitfalls in Writing about Security and Privacy Human Subjects Experiments, and How to Avoid Them
 - Stuart Schechter (元Microsoft)
 - 人間を対象にしたセキュリティとプライバシー実験について執筆するとき
にありがちな落とし穴と、その回避方法
 - 基本的なユーザスタディの設計方法
 - 論文での記載方法
 - 研究倫理について
- 和訳あります！
 - https://github.com/akirakanaoka/ss_usp_jp

USP論文読破会 (旧SOUPS論文読破会)

- 5月と11月の年2回開催
- **トップ会議採録論文のトレンドを知る！**
 - 量的分析（アンケート調査等）のトレンド
 - 質的分析（インタビュー等）のトレンド
 - 実験の設計、結果の見せ方、論文の書き方・・・勉強になります
- **そしてユーザスタディの設計，分析手法を真似る！**

UWS2019勉強会 (本日！)

テーマ：ユーザスタディの設計

| 発表タイトル | 発表者名（所属） |
|--------------------|-------------------------------|
| ユーザスタディの最新動向2019 | 長谷川彩子 （NTTセキュアプラットフォーム研究所） |
| CHI2019参加報告・論文紹介 | 秋山満昭 （NTTセキュアプラットフォーム研究所） |
| ライトニングトーク・ディスカッション | 長谷川まどか（宇都宮大学） 森達哉（早稲田大学） |

CSS2019の研究倫理に関する取り組み

サイバーセキュリティ研究における倫理的配慮のためのチェックリスト

- (1-1) 情報処理学会の**倫理綱領**を確認している。
- (1-2) 研究・実験に用いた製品やサービスの使用許諾書等に記載されているセキュリティ評価や分析について関連する条項を確認した。

- (2-1) 個人を特定可能な情報(PII, Personally Identifiable Information)を含む機微な情報の取り扱いに配慮したこと、およびその配慮を**どのように実施したかについて、文中に明記している。**

- (3-1) 事前に（製品名・サービス名や、攻撃対象・攻撃手法などの公開に伴う）"ネガティブな影響"の検討を行った。
- (3-2) 検討結果を踏まえて、関係者への通知（直接通知 or 届出制度を利用）を事前に行った。
- (3-3) 文中に製品・サービスの具体名を表記している、もしくは、容易に推測できる記述がある場合、そのように記述することの妥当性を検討した。
- (3-4) 上述の"ネガティブな影響"を最小化するための対策について、また論文で取り上げた対象以外に他の製品・サービス等への影響についても検討した。
- (3-5) (3-1)～(3-4)の検討内容に関して、**必要の程度で文中に明記した。**

出展 https://www.iwsec.org/css/2019/ethics_list.html

UWS2020に向けて (B, M1, 社会人)

- まずはUWS2019 (CSS2019) へ参加！
 - ポスター発表、UWSライトニングトークセッション(CUSP) もまだ間に合う！
- 11月のUSP論文読破会で発表
 - これを機にどんどん論文を読もう！参考文献が増えるよ！
- Research Questions, ユーザスタディの設計, 実施！
- UWS2020投稿！ (2020年8月)
- さらに難関国際会議採録を目指そう！